

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(生物環境学 専攻 地域環境工学 コース)

外国語

第 1 頁 ( 3 頁の内)

問 1.

(1)	稲作は本州の最北東部まで、数世紀のうちに極めて急速に広がったと考えられていた。
(2)	灌漑システムの分配と管理には社会組織が必要なため、弥生時代に稲作を基盤とした農耕社会が誕生した，という考え
(3)	しかしながら、この考えはもはや物的証拠によって裏付けられていないため、最近になって再検討され、再定義された。

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(生物環境学 専攻 地域環境工学 コース)

外国語

第 2 頁 ( 3 頁の内)

問 2.

(1)	水は大気中や地表、地下に貯えられている。それは、液体、固体、気体のいずれの状態でも存在し得る。
(2)	塩分を含んだ
(3)	人間 (私たちの体内)、植物、その他の生物
(4)	水蒸気は気体であり、大気中の水分として海や陸地の上に貯えられている。土壌中では、凍った水は永久凍土として、液体の水は土壌水分として貯えられている。

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(生物環境学 専攻 地域環境工学 コース)

外国語

第 3 頁 ( 3 頁の内)

問3.

(1)	政府の調査は、日本が生成 AI の利用において遅れを取っていることを示している。それは、他の主要な経済国と比べて、日本ではこの技術を活用している人や企業がかかなり少ないことを示している。
(2)	日本では生成 AI を利用したことがある人の割合は 26.7%であり、中国の 81.2%、アメリカの 68.8%に比べて大きく下回っている。また、企業の導入予定についても、日本は 49.7%にとどまり、中国やアメリカの 80%以上と比べて遅れをとっている。